

Agent for Lotus Domino

Arcserve® Backup

19.0

arcserve®

法律上の注意

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内を使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2022 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品は以下のとおりです。

- Arcserve® Backup
- Arcserve® Unified Data Protection
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Windows
- Arcserve® Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve® Replication および High Availability

Arcserve Backup マニュアル

Arcserve Backupドキュメントには、すべてのメジャー リリースおよびサービス パックについての特 定のガイドとリリースノートが含まれています。ドキュメントにアクセスするには、以 下 のリンクをクリックします。

- [Arcserve Backup 19.0 リリースノート](#)
- [Arcserve Backup 19.0 マニュアル選択メニュー](#)

Arcserve サポートへの問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

[テクニカルサポートへの問い合わせ](#)

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティに参加して、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの会話を行うことができます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

コンテンツ

第1章: Agent for Lotus Domino の紹介	9
エージェントの概要	10
ライセンス登録	12
アーキテクチャ	13
データベースインスタンス識別子(DBIID)	14
バックアップ計画	15
バックアップの一般的な考慮事項	16
自動繰り返しバックアップ	22
第2章: Agent for Lotus Domino のインストール	23
インストールの前提条件	24
Windows 32 ビットまたは 64 ビット環境でのエージェントのインストール	25
エージェントの環境設定	26
サーバへのアクセス権の設定	27
レジストリエディタの設定	28
レジストリパラメータの変更	29
エージェントのアンインストール	31
第3章: Agent for Lotus Domino の使用	33
データのバックアップ	34
バックアップジョブの実行準備	35
バックアップマネージャの概要	38
バックアップ方式	40
バックアップの実行	42
データのリストア	48
リストアの準備	49
リストアマネージャの概要	50
リストア方式	52
Lotus Domino のリストアオプション	53
リストアの実行	54
増分バックアップを使用したデータのリストア	59
差分バックアップを使用したデータのリストア	60
Lotus DAOS オブジェクト	61
惨事復旧の実行	64
アーカイブされたトランザクションログが有効な場合の惨事復旧の実行	65
循環トランザクションログが有効な場合の惨事復旧の実行	67

トランザクション ログが無効な場合 の惨事 復旧 の実行	68
第4章: 用語集	69
DBIID	70
トランザクション ログ	71
第5章: Index	73

第1章: Agent for Lotus Domino の紹介

Arcserve Backupは、アプリケーション、データベース、分散サーバ、およびファイルシステム向けの包括的かつ分散的なストレージソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーククライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

Agent for Lotus Domino は Arcserve Backup で提供されるエージェントの1つです。このエージェントは、Lotus Domino と通信して、ローカルサーバまたはリモートサーバ上の Lotus Domino データベースをバックアップします。

このガイドでは、Windows プラットフォーム上での Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のインストール、環境設定、使用方法について説明しています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

エージェントの概要	10
ライセンス登録	12
アーキテクチャ	13
データベース インスタンス識別子 (DBIID)	14
バックアップ計画	15

エージェントの概要

Agent for Lotus Dominoは、Lotus Domino データベースおよびトランザクション ログをバックアップできる Lotus Domino バックアップ アプリケーション プログラミング インターフェース(API) を使用します。オンラインまたはオフラインの Lotus Domino データベースをバックアップできます。オンライン バックアップを使用する場合、データベースのレプリケート、および Lotus Domino サーバの停止を行う必要はありません。

エージェントを使用すると、以下のことを実行できます。

フルバックアップの実行

Lotus Domino データベースに入っているすべてのデータベース ファイルを、Arcserve Backup サーバを使用してテープまたはファイルシステム デバイスにバックアップします。Lotus Domino のトランザクション ログオプションが有効で、ログ形式がアーカイブに設定されている場合、エージェントはトランザクション ログ ファイルもバックアップします。トランザクション ログとは、ある特定の時点以降にデータベースで発生したすべてのトランザクションをリストにしたものです。

増分バックアップおよび差分バックアップの実行

増分または差分のバックアップ方式を選択すると、繰り返しジョブをスケジュールできます。トランザクション ログ形式がアーカイブに設定されている Lotus Domino サーバでは、増分および差分バックアップ ジョブを行うと、トランザクション ログ ファイルおよびデータベース ファイルは、新しいデータベース インスタンス ID (DBIID) で Lotus Domino サーバにバックアップされます。これ以外の場合、増分および差分バックアップ ジョブでは変更されたすべてのデータベース ファイルがジョブに含まれます。システムまたはメディアに障害が発生しても、トランザクション ログとデータベースのフルバックアップの両方を使用して、データベースを回復できます。

リストア

データベースおよびトランザクション ログ ファイルをリストアします。エージェントを使用すると、データベースやログ ファイルを元の場所または別の場所のいずれかにリストアできます。

回復

リストアしたデータベースを回復します。回復処理では、トランザクション ログを使用してデータベースを現在の状態にロールフォワードするか(フル自動回復)、指定した時点の状態にロールフォワードします(Point-In-Time 自動回復)。

注: この回復処理は、トランザクション ログが有効な Lotus Domino サーバにのみ適用されます。

エージェント サーバとして使用

Windows 2008、Windows 2012、または Windows Server 2016 のサービスとして機能するため、セットアッププログラムまたは [コントロール パネル] の [サービス] アプレットから、自動的に開始するよう設定できます。そのため、サーバにログインせずにエージェントを実行できます。

パーティション サーバの使用

単一コンピュータ上で Lotus Domino サーバの複数のインスタンスを操作します。Lotus Domino のこの機能により、すべてのパーティションが、同じ Lotus Domino プログラム ディレクトリおよび同じセットの実行可能ファイルを共有します。ただし、各パーティションには、固有のデータ ディレクトリと Notes.ini ファイルのコピーがあります。Arcserve BackupAgent for Lotus Domino では、パーティション サーバをサポートしているため、異なる Lotus Domino サーバにあるデータベースを同時に参照、バックアップ、およびリストアできます。

ニーズに基づいたバックアップ ジョブのスケジュール

バックアップ ジョブを指定した時刻または指定した曜日にスケジュールできます。たとえば、指定日に実行するジョブをサブミットして繰り返し方法を選択したり、ローテーション スキーマ(事前設定の、フルバックアップ ジョブで構成される週単位でのバックアップ計画)を選択したりできます。

ライセンス登録

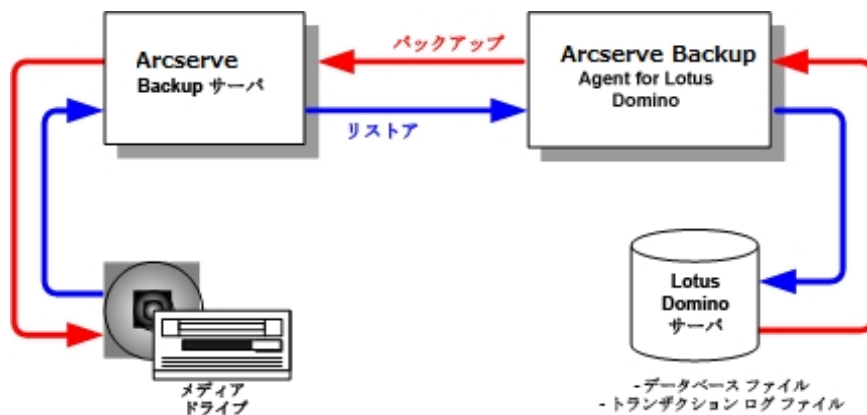
Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のライセンスを Arcserve Backup プライマリサーバまたはスタンドアロンサーバにインストールして検証できます。エージェントを r16.5 SP1 より前の任意のバージョンからこのバージョンにアップグレードする場合、プライマリサーバまたはスタンドアロンサーバのエージェント用の古いライセンスキーと現在のバージョンのアップグレードキーの両方を入力する必要があります。r16.5 SP1 より前のバージョンからアップグレードする場合以外は、現在のバージョンアップグレードキーを入力するだけで構いません。

古いバージョンのエージェントを使用している場合は、Arcserve Backup により、エージェントがインストールされているコンピュータ上のライセンスの確認が行われます。ライセンス登録の詳細については、「[実装ガイド](#)」を参照してください。

アーキテクチャ

Arcserve BackupAgent for Lotus Dominoには、データベースをバックアップおよびリストアできるサービスが備わっています。Arcserve Backup

以下の図は、Arcserve Backup と Lotus Domino の一般的な関係の概要を示しています。



データベース インスタンス識別子 (DBIID)

トランザクション ログを有効にすると、Lotus Domino はデータベース インスタンス識別子 (DBIID) を各 データベースに割り当てます。Lotus Domino がトランザクションをログに記録するときに DBIID も記録されます。回復処理時には、Lotus Domino がこの DBIID を使用してデータベースとトランザクションを一致させます。

データベースの一部のメンテナンス アクティビティでは、Lotus Domino サーバがデータベースに新しい DBIID を割り当てる場合があります。新しい DBIID が割り当てられると、ログに記録されるすべての新しいトランザクションにこの新しい DBIID が使用されます。ただし、古いトランザクションでは以前の DBIID のままであるため、新しい DBIID と一致しなくなります。よって、これらの古いトランザクションを使用してデータベースをリストアすることはできません。

注：データの消失を回避するには、データベースが新しい DBIID に変更された直後に、データベースのフル バックアップを行う必要があります。

このバックアップを実行するときには、その時点までのすべてのデータベース トランザクションを取得し、データベースのリストアには(新しい DBIID を持つ) 新しいトランザクションのみが必要な状態にする必要があります。

バックアップ計画

正しいバックアップ計画の目的は、バックアップデータとトランザクションログファイルの組み合わせから確実にデータを回復させることによって、重要なデータの損失を防ぐことです。バックアップ計画を成功させる鍵は、定期的にバックアップを行うことです。複数ある Lotus Domino インストール環境およびデータベースには、それぞれに異なるバックアップ周期が必要ですが、どのインストール環境およびデータベースのバックアップも決まった間隔で実行する必要があります。

重要： Lotus Domino サーバの使用を開始する前に、必ずバックアップおよび復旧の計画を立ててください。計画を立てずに Lotus Domino サーバの使用を開始すると、ディスク障害が発生した場合にデータを回復できなくなる可能性があります。

Lotus Domino での一般的なバックアップ計画は、週単位で Lotus Domino サーバのフルバックアップ(データベースファイルとトランザクションログファイル)を行うというものです。そのほかに、増分バックアップ(前回のバックアップ時から新しく DBIID を割り当てられた、アーカイブ準備の整ったログとデータベースファイル)を日単位で行うとよいでしょう。実際のバックアップ頻度は、Lotus Domino サーバでの平均トランザクション数によって異なります。

最新のトランザクションがバックアップファイルに含まれるようにするには、データベースよりも頻繁にトランザクションログをバックアップする必要があります。たとえば、トランザクションログのバックアップを 1 日に 1 回実行し、データベース全体のバックアップを週に 1 回実行します。こうすると、データベースをリストアする必要がある場合、前回バックアップされたトランザクションログが常に 24 時間以内のものになります。トランザクションログを頻繁にバックアップするほど、より最近のトランザクションを含むファイルができます。

バックアップの一般的な考慮事項

データベースのバックアップを計画する場合、以下のポイントを考慮してください。

- 各データベースの重要性
- 各データベースの変動性
- 各データベースのサイズ
- 実行日にバックアップの実行に割ける時間の長さ(バックアップの好機ともいう)
- 障害が発生した場合にデータベースの回復に必要な時間

重要性

データベースの重要性は、バックアップ計画を決定する際に非常に重要な要素となることがよくあります。重要なデータベースまたはクリティカル データベースをバックアップする場合、以下の計画を検討してください。

- これらのデータベースを頻繁にバックアップする。
- 前回コミットされたトランザクションまで回復されるよう、関連するトランザクション ログ ファイルをアーカイブする。
- 関連するトランザクション ログ ファイルを頻繁にアーカイブする。

注：トランザクション ログ ファイルを頻繁にアーカイブすると、データベースやトランザクション ログ ファイルに障害が発生し回復する必要がある場合に、失われる可能性のあるトランザクションの数を減らすことができます。

変動性

データベースの変動性によって、バックアップ計画が決定されることがよくあります。データが失われる可能性を小さくするには、変動するデータベースをより頻繁にバックアップする必要があります。また、トランザクション ログ ファイルのサイズを縮小し、回復時にログ ファイルの処理にかかる時間を短縮するため、データベースを毎日バックアップする必要があります。

サイズ

データベースのサイズが、バックアップを実行できるタイミングと頻度に影響することがよくあります。たとえば、非常に大きなデータベースのバックアップには長い時間がかかります。このため、非常に大きなデータベースのバックアップは週に1回、週末にのみ行うことが必要になる場合もあります。データベースのサイズを考慮し、週単位のバックアップが適切と考えられる場合は、関連するトランザクションログファイルのアーカイブをデータベース自体よりも頻繁に実行する必要があります。また、重要なデータベースや変動するデータベースの場合は、トランザクションログファイルを毎日バックアップする必要があります。

バックアップの好機

自分に都合のよいバックアップ時間に合わせ、データベースをバックアップできるタイミングが決定されることがよくあります。たとえば、営業日には頻繁に使用されるが午後 6 時以降にはほとんど使用されないデータベースの場合は、夜間の 12 ～ 13 時間がバックアップ時間になります。一方、月曜から金曜までは 24 時間頻繁に使用されるが、週末には使用されないデータベースの場合は、週末の 2 日間がバックアップ時間になります。いずれの場合も、自分に都合のよいバックアップの好機に合わせてバックアップ計画を調整してください。

回復時間の長さ

データベースの回復にかかる時間を短縮するには、以下の操作を行ってください。

- データベースをバックアップする前に、インデックスを再編成するコマンドや未使用のインデックス領域を解放するコマンドを使用して、データベースサイズの縮小を試みます。
- データベースをより頻繁にバックアップします。データベースのバックアップ頻度を上げると、トランザクション ログ ファイルのサイズが縮小され、ロールフォワードにかかる時間が短縮されます。
- アーカイブしたトランザクション ログ ファイルをディスクに置いておきます。トランザクション ログ ファイルをディスク上に置いておくと、データベースのチェックポイントのみを回復するだけでよく、ログ ファイルを回復する必要はありません。
- 代替システムの準備を完了 (またはほぼ完了) しておき、オンライン システムからシステムを引き継げるようにします。たとえば、最新のデータベースとトランザクション ログ ファイルを代替システムへ定期的に回復すると、オンライン システムに障害が発生した場合、代替システムにすばやく切り替えることができます。

自動繰り返しバックアップ

一定の間隔でバックアップジョブを繰り返して実行するように設定できます。たとえば、毎週日曜日の深夜にバックアップジョブを実行するには、繰り返しの間隔を7日に設定し、ジョブをサブミットするときにそのジョブが日曜の深夜に実行されるようにスケジュールします。バックアップが完了すると、Arcserve Backupは毎週日曜日の真夜中に実行するよう、そのジョブを自動的に再スケジュールします。繰り返し方法]リストから選択することによって、繰り返す間隔を設定できます。これは、バックアップマネージャの[スケジュール]タブに表示されます。間隔を設定するときは、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]を[フル]に設定します。

第2章: Agent for Lotus Domino のインストール

この章では、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino をインストールして設定する方法について説明します。Arcserve Backup をインストールおよび設定するには、指定されたオペレーティングシステムの特性、要件、管理者の責任に精通している必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

インストールの前提条件	24
Windows 32 ビットまたは 64 ビット環境でのエージェントのインストール	25
エージェントの環境設定	26
エージェントのアンインストール	31

インストールの前提条件

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino をインストールする前に、以下のことを確認してください。

- Arcserve Backup Agent for Lotus Domino をインストールするシステムが、インストールの動作要件を満たしていること。要件の一覧については、「[リリースノート](#)」を参照してください。
- ハードディスク上に、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のインストールに使用可能な 30 MB の空き容量がある。
- エージェントをインストールするコンピュータ上で、ソフトウェアをインストールするために必要となる管理者権限 (または管理者に相当する権限) を有していること。
- トランザクション ログ バックアップをサポートする場合、トランザクション ログ オプションが有効になっており、トランザクション ログ 形式がアーカイブに設定されていること。

トランザクション ログを有効にすると、Lotus Domino ではほとんどのデータベースとテンプレートに対するログが自動的にオンになります。Lotus Domino サーバの管理者は、データベースのプロパティから各データベースのログのオン/オフを切り替えることができます。また、管理者はトランザクション ログの場所とサイズも指定できます。

注：保護する Lotus Domino サーバに Arcserve Backup Agent for Open Files をインストールする必要はありません。Agent for Open Files は、開いているファイルまたはアクティブなアプリケーションによって使用中であるファイルを保護する場合に役立ちます。Agent for Lotus Domino は Lotus Domino サーバの保護に特化した専用エージェントなので、Agent for Open Files のすべての機能を活用した完全なソリューションが提供されます。

Windows 32 ビットまたは 64 ビット 環境でのエージェントのインストール

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino (Windows 32 ビット および Windows 64 ビットの両方) では、Arcserve Backup のシステムコンポーネント、エージェントおよびオプションの標準インストール手順に従ってインストールします。この手順の詳細については、[「実装ガイド」](#)を参照してください。

重要：古いリリースの Arcserve Backup Agent for Lotus Domino からアップグレードする場合、アップグレードした後、すぐにフルバックアップをスケジュールする必要があります。

エージェントの環境設定

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino の設定を開始する前に、Lotus Domino サーバの notes.ini ファイルが格納されている場所のパスを確認しておく必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [サーバへのアクセス権の設定](#)
- [レジストリエディタの設定](#)
- [レジストリパラメータの変更](#)

サーバへのアクセス権の設定

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino は Lotus API を経由して Lotus Domino サーバに接続します。そのため、セキュリティ上の理由から、ユーザがエージェントのコンポーネントを実行するには、内部から Lotus Domino サーバに接続する許可とアクセス権を持っていることが重要です。

Agent for Lotus Domino を使用し始める前に、バックアップする Lotus Domino サーバへのアクセス権を設定する必要があります。

以下の手順に従います。

1. Windows の [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム]- [Arcserve Backup]- [Arcserve]- [Lotus Domino Agent 環境設定] を選択します。
[Agent for Lotus Domino 環境設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. notes.ini ファイルの場所、サーバ ID ファイル名、およびサーバ ID ファイルにアクセスするためのパスワードを入力します。
注：サーバ ID のファイル名および対応するパスワードは、共有電子メールデータベースをバックアップするときのみ必要です。一般的に、Lotus Domino のパーティション サーバでは、notes.ini ファイルは Lotus Domino のデータ パスにあります。Lotus Domino のシングル サーバでは Lotus Domino のホーム ディレクトリです。
3. [完了] ボタンをクリックします。
環境設定情報がレジストリエディタに送信され、環境設定は完了します。

レジストリエディタの設定

Windows Server 2008、Windows Server 2012、および Windows Server 2016 サービスで利用可能な Windows REGEDT32 ユーティリティを使用すると、Windows レジストリで Arcserve Backup Agent for Lotus Domino の設定値の一部をカスタマイズおよび変更できます。

注：レジストリエディタからオプションを変更できます。ただし、オプションを変更しないことをお勧めします。不明点があれば Arcserve [サポート](#) にお問い合わせください。

レジストリエディタで設定する方法

1. レジストリエディタを開きます。
2. レジストリエディタのツリーで、以下のいずれかのノードまで展開します。

x86 システムの場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA Arcserve Backup\DSAgent\CurrentVersion\agent\dbanotes@ (Lotus Domino サーバ名)

x64 システムの場合

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ComputerAssociates\CA ARCServe Backup\DSAgent\CurrentVersion\agent\dbanotes@ (Lotus Domino サーバ名)

3. 右ペインのリストで設定するオプションをダブルクリックします。
4. 必要に応じて、設定を変更します。
5. エージェントのオプションの設定が終了したら、レジストリエディタを終了し、Arcserve Backup Agent RPC Server を再起動します。

レジストリパラメータの変更

以下のレジストリパラメータを変更できます。

dll

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino 実行可能ファイル(dbanotes.dll) の場所を指定します。

NotesIniDir

notes.ini ファイルの場所を指定します。

NotesHomeDir

Lotus Domino のホーム ディレクトリ(Lotus\Domino) の場所を指定します。

NotesDataPath

Lotus Domino のデータ パス(Lotus\Domino\data) の場所を指定します。

dsaobject1

Lotus Domino ID ファイル(例: server.id) の場所を指定します。

debug

対応する Lotus Domino サーバに対して、生成されるトレースファイル (dbanotes@servername.trc) のデバッグレベルまたは範囲を指定します。このトレースファイルには、Arcserve テクニカル サポートが問題を解決する際に有用な情報が含まれています。

DWORD エディタ ダイアログ ボックスを開いてデバッグレベルを設定すると、このパラメータを設定できます。

値: 0 (トレースファイルを生成しない)、1 (一般的なトレースファイルを生成する)、2 (詳細なトレースファイルを生成する)

PreviousInstanceName

現在のホスト サーバに存在しない Lotus Domino インスタンスをリストアします。この場合、存在しない Lotus Domino インスタンスのリストアと回復には、現在の Lotus Domino インスタンスの設定が使用されます。

このシナリオは以下の場合に発生します。

- エージェントの以前のリリースから現在のリリースにアップグレードした場合。また、Lotus Domino サーバをパーティションが設定されたサーバにアップグレードした場合。
- エージェントの現在のリリースが存在しており、最終バックアップの後に Lotus Domino サーバの名前を変更した場合。

以前のインスタンス名を解決するには、以下のガイドラインに従います。

- リストア対象のデータが古いリリースのエージェントを使用してバックアップされた場合、古いインスタンス名は常に dbanotes になります。
- リストア対象のデータが現在のリリースのエージェントを使用してバックアップされた場合、インスタンス名は dbanotes@servername になります。(サーバ名は実際の Lotus Domino サーバ名になります)。

DWORD エディタ ダイアログ ボックスを開いてデバッグ レベルを設定すると、このパラメータを設定できます。



重要：バックアップを実行した後、Lotus Domino サーバの名前を変更しないでください。リストアジョブでは常に、バックアップされたものと同じ Lotus Domino サーバの設定を使用します。Lotus Domino サーバの名前を変更した場合、リストアを実行するには、PreviousInstanceName レジストリキーを手動で設定する必要があります。

エージェントのアンインストール

使用していない場合、Agent for Lotus Domino をアンインストールできます。

Agent for Lotus Domino をアンインストールする方法

1. Windows のコントロール パネルを開きます。
2. [プログラムの追加と削除]をダブルクリックします。
[アプリケーションの追加と削除]ウィンドウが開きます。
3. [Arcserve Backup]を選択し、[削除]をクリックします。
[Arcserve Backup アプリケーションの削除]ウィンドウが表示されます。
4. Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を選択し、[次へ]をクリックします。
場合によっては、警告メッセージが表示されます。
5. [次へ]をクリックします。
6. [指定したコンポーネントをご使用のコンピュータから削除してもよい場合、このチェックボックスをオンにしてください]チェックボックスを選択し、[削除]をクリックします。

エージェントがアンインストールされ、サーバで使用可能な Arcserve Backup コンポーネントの最新のリストが表示されます。

第3章: Agent for Lotus Domino の使用

この章では、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータをバックアップおよびリストアする方法について説明します。バックアップおよびリストア機能の詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

データのバックアップ	34
データのリストア	48
惨事復旧の実行	64

データのバックアップ

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino とバックアップ マネージャを使用すると、任意の Lotus Domino サーバをソースとして選択し、Arcserve Backup サーバに接続されているテープ デバイスをデスティネーションに選択した状態で、バックアップ ジョブを選択 およびサブミット することができます。Lotus Domino サーバ全体または Lotus Domino サーバ内の個々のオブジェクト(データベース ファイルおよびトランザクション ログ ファイル) をバックアップすることが可能です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [バックアップ ジョブの実行準備](#)
- [バックアップ マネージャの概要](#)
- [バックアップ方式](#)
- [バックアップの実行](#)

バックアップ ジョブの実行準備

バックアップ ジョブをサブミットする前に、以下のタスクを実行してください。

- データベースのデータの整合性を確認します。データの整合性を確認するには、Lotus Domino クライアントでデータベースを開き、矛盾やエラーの内容を調査します。
- Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のログオン情報を指定します。
- Arcserve Backup サーバのホーム ディレクトリに環境設定ファイルを作成します。
- Lotus Domino の起動

環境設定ファイル

Lotus Domino データをバックアップする前に、Arcserve Backup サーバの NotesNetShare.cfg 環境設定ファイルをホームディレクトリに作成する必要があります。

以下に、NotesNetShare.cfg ファイルフォーマットの例を示します。

```
\\server213\d$ \\server100\lotus
```

server213

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino がインストールされているホストサーバ (マシン) を指定します。

d\$

マップされたドライブを lotus という名前の NAS 共有に指定します。

server100

NAS サーバ名を指定します。

lotus

NAS 共有を指定します。

以下に、NotesNetShare.cfg ファイルフォーマットの別の例を示します。

```
¥¥123.456.789.1¥f$ ¥¥123.456.789.2¥d$
```

この例では、123.456.789.1 は Arcserve Backup Agent for Lotus Domino がインストールされているホストサーバ (マシン)、f\$ はネットワーク共有デバイスにマップされたドライブ、\\123.456.789.2\d\$ は Lotus Domino データディレクトリがある場所です。

Lotus Domino の起動

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータをバックアップする前に、以下のいずれかのモードを使用して Lotus Domino を起動する必要があります。

- サービス モード
- アプリケーション モード

(仮想セッションの代わりに) コンソールを使用してログインし、Lotus Domino をアプリケーション モードで起動することができます。

重要: 仮想セッションを使用してログインし、Lotus Domino をアプリケーション モードで起動すると、エージェントを使用する際に不具合が発生する可能性があります。そのため、コンソールを使用してログインすることをお勧めします。

バックアップ マネージャの概要

バックアップ マネージャには、Arcserve Backupジョブの詳細情報が表示されます。また、バックアップするオブジェクトとバックアップ先の場所を選択することもできます。また、バックアップ マネージャのフィルタ、オプション、およびスケジューリングを使用して、バックアップ ジョブをカスタマイズすることもできます。バックアップ マネージャの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

バックアップ マネージャのタブ

それぞれのバックアップ ジョブには、ソース、デスティネーション(メディア) およびスケジュールまたは方式を指定する必要があります。バックアップ マネージャ画面には、バックアップ ジョブをカスタマイズする以下の4つのタブが表示されます。

【スタート】タブ

バックアップの種類を選んだり、ステージング オプションを有効または無効にできます。バックアップの種類には標準、デデュプリケーション、および Unix/Linux Data Mover バックアップがあります。

【ソース】タブ

【Agent for Lotus Domino 環境設定】ダイアログ ボックスで正しく設定されたすべての Lotus Domino サーバが表示されます。Lotus Domino サーバをブラウズすると、そのサーバに配置されているオブジェクトのリストが表示されます。Lotus Dominoサーバのディレクトリは、Arcserve Backupでサポートされたほかのホストやクライアントと同じ方法でブラウズできます。

【スケジュール】タブ

バックアップ プロセスのスケジュールおよび方式を選択できます。このタブでは、事前に定義したバックアップ計画を選択したり、要件に合わせてバックアップ計画をカスタマイズすることができます。

【デスティネーション】タブ

すべてのデバイスのグループが、Arcserve Backup のデバイス環境設定 (dvconfig.exe) ファイルで定義したとおりに表示されます。

バックアップ方式

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のバックアップ方式は、バックアップ マネージャの [スケジュール] タブに表示されます。

フル-アーカイブビットを残す

すべての選択されている項目がバックアップされます(フルバックアップ)。Lotus Domino サーバ全体(データベースファイルとトランザクション ログ ファイル)、特定のデータベースファイル、またはトランザクション ログ ファイルを選択できます。

フル-アーカイブビットをクリア

すべての選択されている項目がバックアップされます(フルバックアップ)。Lotus Domino サーバ全体(データベースファイルとトランザクション ログ ファイル)、特定のデータベースファイル、またはトランザクション ログ ファイルを選択できます。

注: Arcserve Backup Agent for Lotus Dominoでは、[フル-アーカイブビットを残す]と[フル-アーカイブビットをクリア]のいずれの方式でも、同じフルバックアップが生成されます。アーカイブビットを維持およびアーカイブビットをクリアの機能は、エージェントには適用されません。

増分

アーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが有効に設定されている Lotus Domino サーバでは、増分バックアップを行うと、トランザクション ログ ファイルと、前回のフルまたは増分バックアップ以降に新しい DBIID が割り当てられたファイルのみがバックアップに含まれます。トランザクション ログがない、またはアーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが無効に設定されている Lotus Domino サーバでは、増分バックアップを行うと、前回のフルまたは増分バックアップ以降に変更されたファイルのみがバックアップに含まれます。

差分

アーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが有効に設定されている Lotus Domino サーバでは、差分バックアップを行うと、トランザクション ログ ファイルと、前回のフルバックアップ以降に新しい DBIID が割り当てられたファイルのみがバックアップに含まれます。トランザクション ログがない、またはアーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが無効に設定されているサーバでは、差分バックアップを行うと、前回のフルバックアップ以降に変更されたファイルのみがバックアップに含まれます。

注: 以前にアーカイブされたログ ファイルが存在しないために、ジョブ中にバックアップされたトランザクション ログ ファイルが1つも存在しないこともあります。またデ

フォルトでは、アクティブなトランザクション ログ ファイルも、ファイルの内容 が変 動する
ためバックアップされません。

バックアップの実行

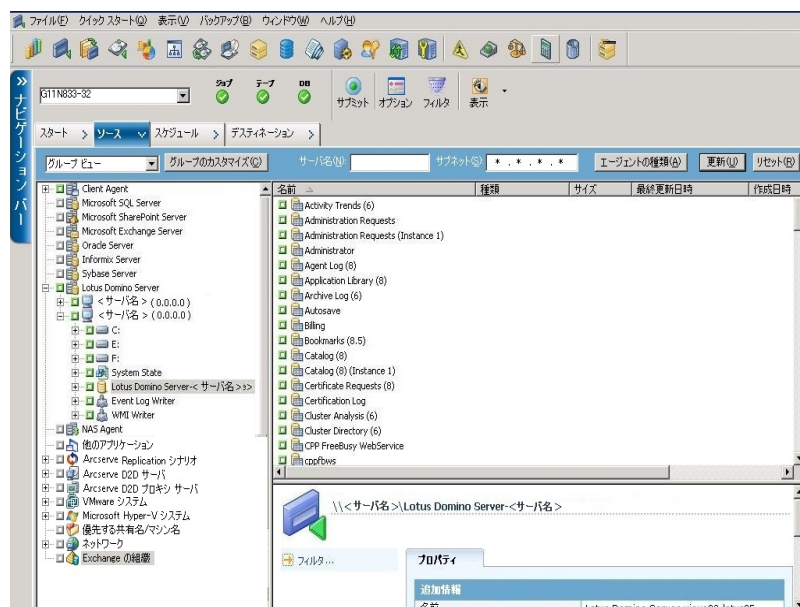
バックアップジョブには、データの抽出元であるデータソース(ソース)と、抽出したデータの保管先となるストレージデバイス(デスティネーション)が必要です。Lotus Domino からデータをバックアップするには、バックアップマネージャを使用し、ソースとして Lotus Domino サーバオブジェクト、デスティネーションとして Arcserve Backup デバイスを選択してバックアップジョブをサブミットする必要があります。

注：Agent for Lotus Domino は、エージェントサーバでのデータ暗号化およびデータ圧縮をサポートしていません。

データをバックアップする方法

1. [クイックスタート]-[バックアップ]をクリックします。
[バックアップマネージャ]ウィンドウが表示されます。
2. [ソース]タブで、バックアップする Lotus Domino サーバが含まれるホストサーバを展開します。

該当するツリーが展開され、バックアップ可能なサーバが表示されます。



注：Lotus Domino サーバ名の長さが使用可能な文字数を超過している場合、Arcserve Backup は制限を超えている余分な文字を自動的に切り捨て、文字列の最後の2文字を01で置き換えます。同じ名前の Lotus Domino サーバが別に存在する場合、Arcserve Backup は再度名前を最大文字数で切り捨て、文字列の最後の2文字を02で置き換えます。

Arcserve Backup r16.5 SP1 以降の場合、サーバ名の最大長は79文字です。

Arcserve Backup r16.5 SP1 以降の場合の例

- Lotus Domino サーバが以下のような名前だとします。

「User111111111122222222233333333334444444445555555556666666666-7777777778888888」(81 文字)

- Arcserve Backup は、名前を 79 文字に切り捨て、最後の 2 文字を以下のように変更します。

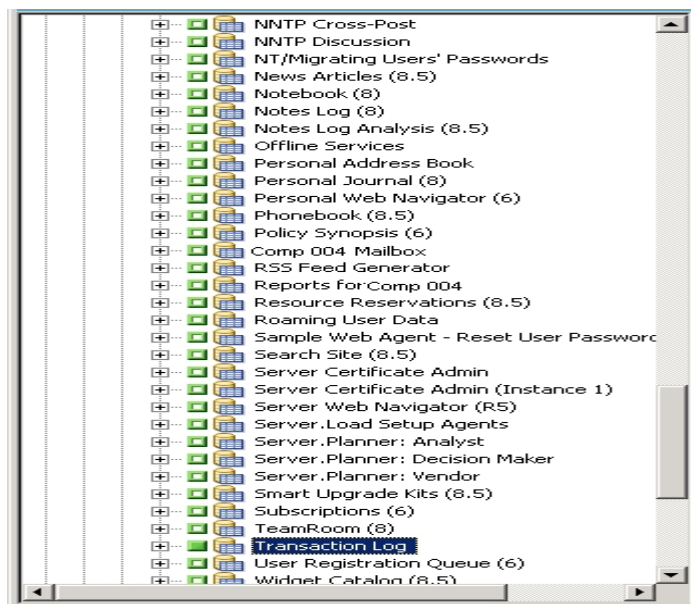
「User111111111122222222233333333334444444445555555556666666666-77777777788801」(79 文字)

- 前と同じ名前を使用して Lotus Domino サーバを作成すると、Arcserve Backup は以下のように名前を変更します。

「User111111111122222222233333333334444444445555555556666666666-77777777788802」(79 文字)

3. バックアップするデータベースが含まれる Lotus Domino サーバをクリックします。

該当するツリーが展開され、選択した Lotus Domino サーバ上にあるデータベースのリストが表示されます。また、Lotus Domino のトランザクション ログ オプションが有効に設定されており、ログ形式としてアーカイブが選択されている場合、展開された Lotus Domino ツリーにトランザクション ログのアイコンも(アルファベット 順で) 表示されます。



4. 対応するボックスが緑一色(フルバックアップ)になるまでクリックして、Lotus Domino データベースを選択します。

Lotus Domino サーバ全体を選択することも、サーバ内の個々のオブジェクト(データベースやトランザクション ログ)を選択することもできます。

5. (オプション) Lotus Domino サーバを右クリックし、[フィルタ]を選択します。

[フィルタ]ダイアログ ボックスが開きます。

6. フィルタ オプションを選択して、[OK]をクリックします。

注: Arcserve Backup Agent for Lotus Domino でサポートしているのは、ファイルパターン フィルタとディレクトリパターン フィルタのみです。これらのフィルタを使用すると、特定のファイル名 やファイルパターン、または特定のディレクトリ名 やディレクトリパターンに基づいて、ファイルまたはディレクトリをジョブに含めるか除外するかを指定することができます(ファイルデータ フィルタは、このエージェントでは使用できません)。フィルタ オプションの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

7. [スケジュール]タブをクリックして、スケジュールおよびバックアップ方式のオプションを表示します。
8. [スケジュール]オプションでは、[カスタム スケジュール]または [ローテーション スキーマ]を選択します。

- a. [カスタム スケジュール]オプションでは、バックアップ ジョブを 1 度だけ実行するか、指定したとおりに繰り返し実行するかを指定できます。

- ◆ [繰り返し方法]ドロップダウンから、[1 度だけ]または適切な繰り返し方法([一定間隔]、[曜日]、[週]、[日]または [カスタム])を選択します。

- ◆ 適切なバックアップ方式(フル、増分、または差分)を選択します。

アーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが有効に設定されている場合、増分バックアップを行うと、トランザクション ログ ファイルと、前回のフルまたは増分バックアップ以降に新しい DBIID が割り当てられたファイルのみがバックアップされます。アーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが無効に設定されている場合、増分バックアップを行うと、前回のフルバックアップまたは増分バックアップ以降に変更されたデータベース ファイルのみがバックアップされます。

注: これらのオプションの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

- b. [ローテーション スキーマ]オプションを使用すると、バックアップ方式を組み合わせ、5 ~ 7 日間のカスタマイズされたサイクルで、バックアップ ジョブを実行することができます。

- ◆ 以下のスケジュール オプションから 1 つを選択します。

[スキーマ名] - サブミットするローテーション ジョブの種類を指定します。

[開始日] - バックアップを開始する日付を選択します。

[実行時間] - バックアップを開始する時刻を選択します。

[GFS を有効化] - 事前定義済みの GFS (Grandfather-Father-Son) ローテーション スキーマを選択します。

- ◆ 適切なバックアップ方式 (フル、増分、または差分) を選択します。

注: これらのオプションの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

9. [デスティネーション] タブをクリックしてデスティネーションのオプションを表示し、バックアップ データの送り先となる適切なバックアップ グループおよび対応するメディア情報を選択します。

10. ツールバーの [サブミット] をクリックします。

すべてのバックアップ ジョブ属性を指定すると、バックアップ ジョブが開始されます。

[セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスが表示されます。

11. 選択したサーバホストのセキュリティ情報 (ユーザ名 とパスワード) を入力します。セキュリティ オプションの詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

重要: [セキュリティおよびエージェント情報] ダイアログ ボックスには、リモートの Windows 2008、および Windows 2012、Windows サーバ 2016 サービスの情報のみを入力できます。作業を続行するには、少なくともバックアップするための権限が必要です。ローカルマシン上の Lotus Domino データベースをバックアップする場合は、このダイアログ ボックスに情報を入力する必要はありません。

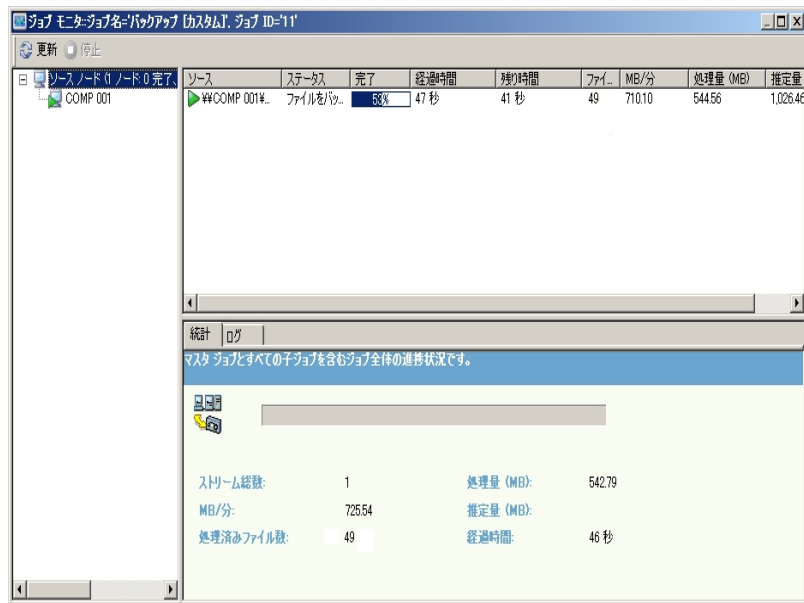
12. [OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが表示され、ジョブの種類、データベース ファイルのソース ディレクトリ、およびデスティネーションの情報に関するサマリが表示されます。必要に応じて、[ジョブの詳細] フィールドにジョブの説明を入力します。

13. [ジョブ実行時刻] で [即実行] (すぐにバックアップを実行) または [実行日時指定] (バックアップの日時を定義) を選択し、[OK] をクリックしてバックアップ ジョブをサブミットします。

[ジョブステータス] ウィンドウが開き、[ジョブキュー] と [ジョブの詳細] が表示されます。サーバ名を右クリックして [プロパティ] を選択すると、より詳細なジョブ モニタ情報を表示することができます。[ジョブ モニタ] ウィンドウが開き、バックアップ プロ

セスの詳細とステータスが表示されます。



バックアップジョブが完了すると、ステータスウィンドウが表示され、バックアップジョブの最終ステータス(成功または失敗)が表示されます。

14. [OK]をクリックします。

[ステータス]ウィンドウが閉じられます。

詳細情報:

[バックアップ計画](#)

Lotus DAOS オブジェクト

データのバックアップに Lotus Domino サーバを選択すると、[ソース]タブに DAOS オブジェクトは表示されません。Arcserve Backup は、対応する参照先を含むデータベースを使用して、参照された DAOS オブジェクトをバックアップします。

データのリストア

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino とリストア マネージャを使用して、リストア ジョブの設定 およびサブミットを行うことができます。Lotus Domino データベース全体をリストアすることも、データベース内の個々のオブジェクト(データベース ファイル やトランザクション ログ ファイル) をリストアすることもできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [リストアの準備](#)
- [リストア マネージャの概要](#)
- [リストア方式](#)
- [Lotus Domino のリストア オプション](#)
- [リストアの実行](#)
- [増分 バックアップを使用したデータのリストア](#)
- [差分 バックアップを使用したデータのリストア](#)
- [Lotus DAOS オブジェクト](#)

リストアの準備

メディア障害から復旧するには、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して、まず、アーカイブされたログ ファイル(アーカイブされたログ ファイルが存在しない場合)をリストアし、その後 データベースをリストアします。前回のフルバックアップを実行した時点から障害発生時点までに発生したトランザクション ログすべてをリストアします。

トランザクション ログ ファイルがすでに無効(削除されている、または破損している)になっている状態で [回復の実行] オプションを選択する場合は、データベースをリストアする前に、データベースが前回バックアップされた時点から今回のリストアジョブまでの間にアーカイブされたトランザクション ログ ファイルをリストアする必要があります。

注: サーバに存在しないトランザクション ログのみをリストアします。アーカイブされたログがログ ディレクトリ内に存在する場合は、テープからリストアする必要はありません。トランザクション ログのリストアは、アーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが有効に設定されている Lotus Domino サーバにのみ適用されます。

共有メールをリストアするには、最初に Lotus Domino サーバをシャットダウンする必要があります。

Lotus Domino サーバをシャット ダウンする方法

1. Lotus Domino サーバを起動します。
2. 共有メールをオフラインにします。
3. Lotus Domino サーバをシャット ダウンします。

リストア マネージャの概要

リストア マネージャにはArcserve Backupジョブの詳細な情報が入っているため、リストアしたいオブジェクトやリストア先の場所を簡単に選択することができます。また、リストア マネージャのオプションおよびスケジューリングを使用して、リストア ジョブをカスタマイズすることもできます。バックアップ マネージャの詳細については、[「管理者ガイド」](#)を参照してください。

リストア マネージャのタブ

各 リストア ジョブには、ソース(メディアとセッション) およびデスティネーションを指定する必要があります。[リストア マネージャ]ウィンドウには、リストア ジョブのカスタマイズに使用する以下の3つのタブがあります。

[ソース]タブ

バックアップ済みの Lotus Domino オブジェクトのリストを表示します。

[デスティネーション]タブ

バックアップされたオブジェクトをリストアできる場所のリストが表示されます。

[スケジュール]タブ

リストア プロセスのスケジュールおよび方式を設定できます。

リストア方式

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のリストア方式は、リストアマネージャの [ソース] タブにあるドロップダウン リストから表示できます。リストアする Lotus Domino サーバを選択する際、以下の方式を使用できます。

【ツリー単位】方式

リストアジョブのオブジェクトをデータのバックアップ元のソースマシンに基づいて選択できます。この方式を選択した場合、サーバの内容全体をまとめてリストアすることができないため、代わりに従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要があります。この方法は、必要なデータが格納されているメディアがどれなのか不明だが、リストア対象のデータおよびその格納先マシンがどれなのか検討がつく場合に使用します。リストアマネージャではこの方式がデフォルトになっています。

【セッション単位】方式

バックアップに使用したすべてのメディアとそこに格納されているファイルのリストが表示されます。また、リストアジョブのオブジェクトをバックアップセッションに基づいて選択できます。

【照会単位】方式

このエージェントでは、この方式はサポートされていません。

【イメージ単位】方式

このエージェントでは、この方式はサポートされていません。

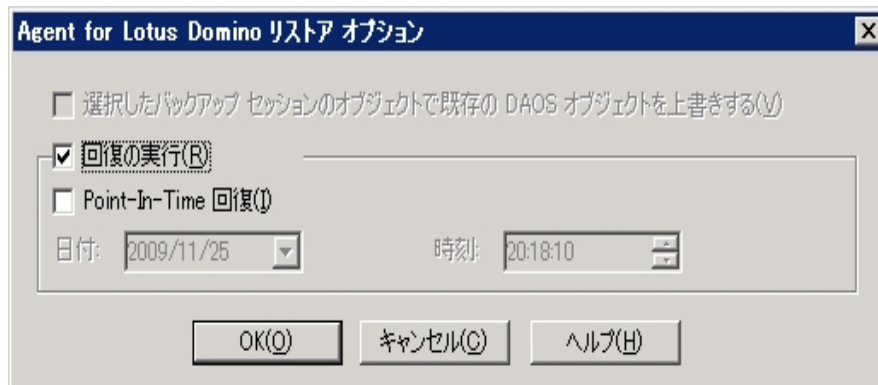
【メディア単位】方式

このエージェントでは、この方式はサポートされていません。

注：すべての方式で、データはデフォルトで元のデータベースにリストアされます。

Lotus Domino のリストア オプション

Arcserve Backup Agent for Lotus Domino のリストア オプションは、[Agent for Lotus Domino リストア オプション]ダイアログ ボックスに表示されます。このダイアログ ボックスを開くには、Lotus Domino サーバを選択し、右クリックして [エージェント オプション]を選択します。



注： 選択した Lotus Domino データベース上でトランザクション ログを有効にしている場合のみ、Arcserve Backup はこれらのオプションを使用してリストアを実行できます。

使用可能なオプションは、以下のとおりです。

既存の DAOS オブジェクトを、選択したバックアップ セッションのオブジェクトで上書きする

DAOS オブジェクトを、選択したバックアップ セッションのオブジェクトで上書きします。

注： このオプションを選択しない場合、Arcserve Backup は DAOS オブジェクトのリストアをスキップします。

回復の実行

データベースを現在の日時 (最新) まで回復します。

Point-In-Time 回復

指定した時点 (日付と時刻) までデータベースを回復します。

注： 回復とは、データベースがバックアップされた後に発生したデータベースの変更を適用する処理です。回復プロセスを行うと、データベースが最近の状態に戻ります。[Point-In-Time 回復]を選択すると、データベースの状態を特定の時点まで戻ることができるため、より柔軟にデータベースを回復できます。

リストアの実行

リストアジョブを行うには、バックアップファイルの抽出元であるデータソースと、ファイルのリストア先となるデスティネーションが必要です。Lotus Domino からデータをリストアするには、リストアマネージャを使用してリストアジョブを設定しサブミットする必要があります。

バックアップデータのリストア方法

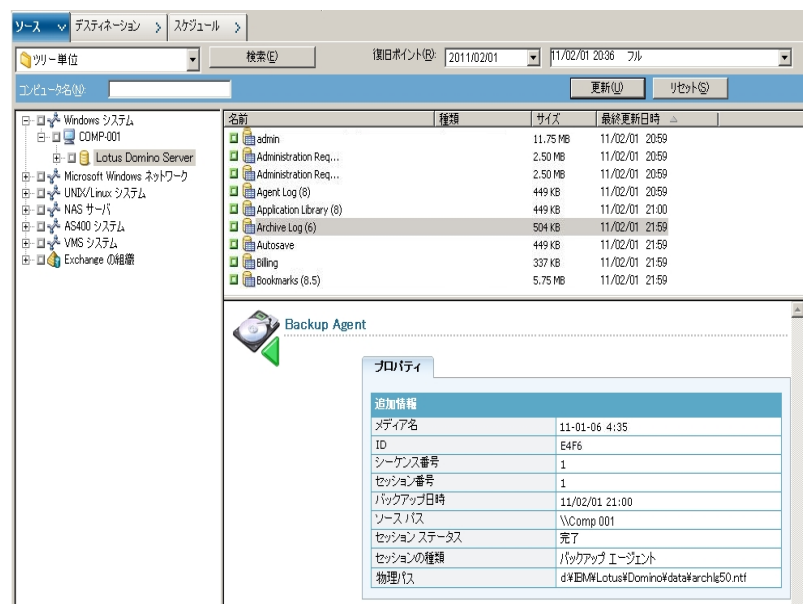
1. Arcserve Backup ホーム ページで [リストア マネージャ] アイコンをクリックします。

リストア マネージャのメイン ウィンドウが開きます。

重要: ツリー単位方式を選択した場合は、Lotus Domino サーバの内容全体をまとめてリストアすることはできないため、代わりに従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要があります(対応するサーバのボックスは灰色が無効です)。セッション単位方式を選択した場合は、Lotus Dominoサーバの内容全体をまとめてリストアできます。従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要はありません(対応するサーバのボックスは緑色が有効になっています)。

2. [ソース]タブのドロップダウンリストから、リストア方式を選択します。

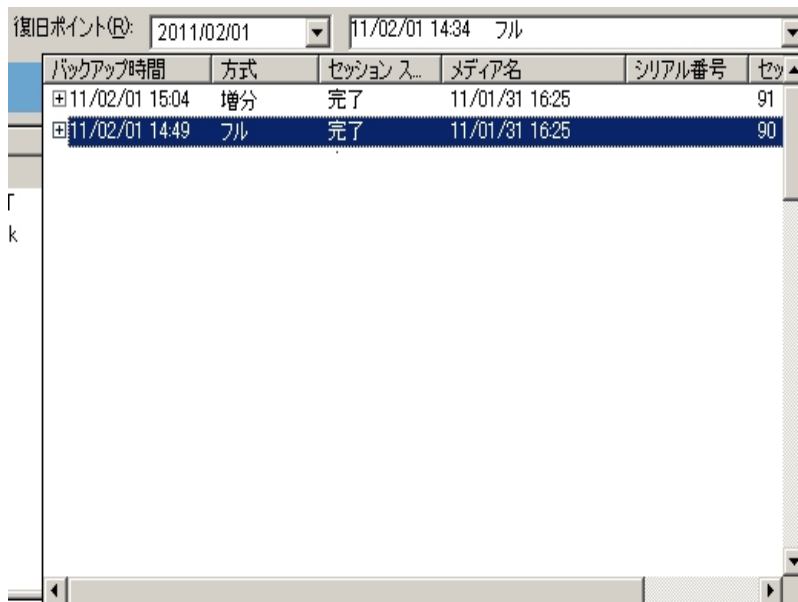
該当するソース ツリーに表示されるオプションは、[ツリー単位]方式を選択したか、[セッション単位]方式を選択したかによって異なります。



[ツリー単位]方式を選択すると、ツリーには前回完了したバックアップジョブのみが表示されます。

注:

- ◆ Arcserve BackupAgent for Lotus Dominoでは、ツリー単位方式とセッション単位方式のみがサポートされています。
 - ◆ セッションが DAOS リポジトリおよびトランザクション ログを含んでおり、両方の項目を選択する場合、物理パスが表示されません。
 - ◆ 本リリースのエージェントにアップグレードし、前のリリースで作成されたセッションが存在する場合は、物理パスが表示されません。
3. 最新以外のバックアップジョブをリストアするには、サーバ名をクリックし、最初の[復旧ポイント]ドロップダウンコントロールをクリックして復旧ポイントの日付を選択します。
 4. 2番目の[復旧ポイント]ドロップダウンコントロールをクリックして利用可能なセッションをすべて表示させ、適切なセッションを選択します。



5. [ソース]タブで、リストアする Lotus Domino データベースを探します。

注: バックアップ中に Lotus Domino のアーカイブ形式のトランザクション ログ オプションを有効にした場合、展開された Lotus Domino サーバのツリーに最初に表示されるのはトランザクション ログのアイコンです。ただし、アーカイブ済みのログファイルが1つもない場合、トランザクション ログのアイコンは表示されません。

6. リストア対象のオブジェクトに対応するボックスが緑一色(フルリストア)になるまでクリックして、オブジェクトを選択します。

セッション単位方式を選択した場合は、サーバ名の横の対応するボックスが緑色になるまでクリックすると、Lotus Domino サーバ全体をまとめてリストアすることができます。個別のデータベースファイルまたはトランザクション ログ ファイルをリストアするには、対応するボックスが緑一色になるまでそれぞれのファイルを選択します。

7. リストアするオブジェクトが含まれる Lotus Domino サーバを右クリックし、[エージェント]を選択します。

[Agent for Lotus Domino リストア オプション]が開きます。

8. [Agent for Lotus Domino リストア オプション]ダイアログ ボックスから、[リストア オプション]([選択したバックアップ セッションのオブジェクトで既存の DAOS オブジェクトを上書きする]、[回復の実行]、または [Point-In-Time 回復]) を選択した後、[OK]をクリックします。

注: Point-In-Time 回復を選択するには、[回復の実行]と [Point-In-Time 回復]の両方のオプションを選択する必要があります。完全回復を選択するには、[回復の実行]オプションのみを選択します。

9. リストア方式とオブジェクトを選択した後、[デスティネーション]タブをクリックします。

注: Arcserve Backup Agent for Lotus Domino は、元の場所へリストアするオプション(デフォルト)と別の場所にリストアするオプションの2つのデスティネーション オプションを提供します。Lotus Domino サーバから元の場所や別の場所にデータをリストアすることは可能ですが、別の Lotus Domino サーバにリストアすることはできません。

重要: バックアップ ジョブを実行した後、Lotus Domino サーバの名前を変更しないでください。リストア ジョブでは常に、バックアップされたものと同じ Lotus Domino サーバの設定を使用します。Lotus Domino サーバの名前を変更した場合、リストアを実行するには、レジストリキー、PreviousInstanceName を手動で設定する必要があります。

注: Lotus Domino サーバ名の長さが使用可能な文字数を超過している場合、Arcserve Backup は制限を超えている余分な文字を自動的に切り捨て、文字列の最後の2文字を01で置き換えます。同じ名前の Lotus Domino サーバが別に存在する場合、Arcserve Backup は再度名前を最大文字数で切り捨て、文字列の最後の2文字を02で置き換えます。

Arcserve Backup r16.5 SP1 以降の場合、サーバ名の最大長は79文字です。

Arcserve Backup r16.5 SP1 以降の場合の例

- Lotus Domino サーバが以下のような名前だとします。

「User111111111122222222223333333333444444444455555555556666666666-777777777788888888」(81文字)

- Arcserve Backup は、名前を79文字に切り捨て、最後の2文字を以下のように変更します。

「User111111111122222222223333333333444444444455555555556666666666-777777777788801」(79文字)

- 前と同じ名前を使用して Lotus Domino サーバを作成すると、Arcserve Backup は以下のように名前を変更します。

「User111111111122222222233333333334444444445555555556666666666-777777777788802」(79 文字)

10. リストアするデータのデスティネーションを選択します。

元の場所または別の場所にどちらかにデータをリストアすることができます。

- a. データベースファイルを元の場所にリストアするには、[ファイルを元の場所へリストア]を選択します。

[デスティネーション]ウィンドウには、[ファイルを元の場所へリストア]エントリが表示されます。

- b. デスティネーション オブジェクト ツリーを使用してデータベースファイルを別の場所にリストアするには、[ファイルを元の場所へリストア]チェックボックスの選択を解除し、データのリストア先となるデスティネーションを選択します。

11. [スケジュール]タブをクリックし、[繰り返し方法]ドロップダウン リストから [1 度だけ]または適切な繰り返し方法 ([一定間隔]、[曜日]、[週]、[日]または [カスタム]) を選択します。

12. リストアジョブ属性をすべて指定した後、ツールバーの [サブミット] ボタンをクリックします。

リストアジョブが開始されます。リストアを実行しようとしているホストの [セッション ユーザ名 およびパスワード] ダイアログ ボックスが開きます。

注: セッション パスワードが必要なのは、バックアップ プロセス中にセッション パスワードを指定した場合のみです。

13. 選択したサーバホストおよびバックアップ セッションに必要なセキュリティ アクセス情報 (ユーザ名とパスワード) を入力します (必要な場合)。セッション オプションの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。ローカルで行うリストアジョブの場合、セキュリティ情報は必要ありません。

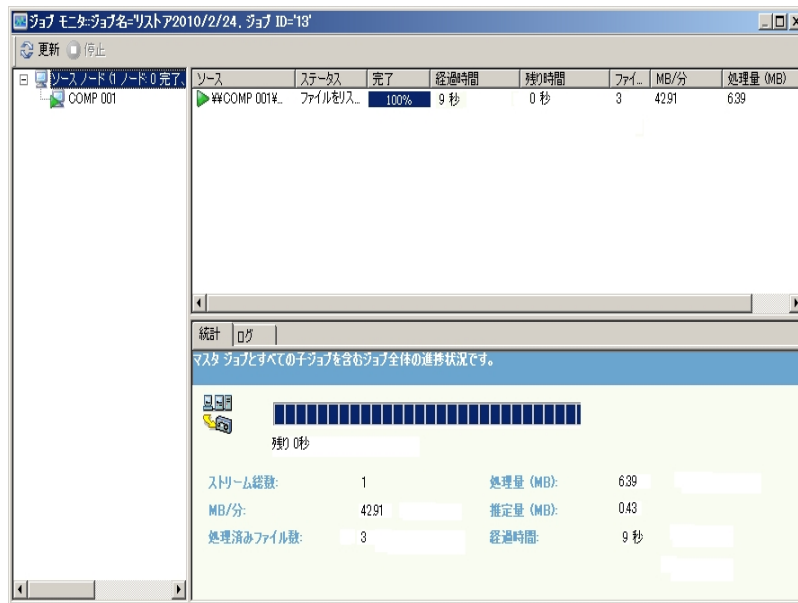
14. [OK] をクリックします。

[ジョブのサブミット] ダイアログ ボックスが開き、ジョブの種類およびデスティネーション ディレクトリのサマリが表示されます。必要に応じて、[ジョブの詳細] フィールドにジョブの説明を入力します。

15. [ジョブ実行時刻]を選択した後、[即実行] (すぐにリストアを実行) または [実行日時指定] (リストアの日時を定義) を選択し、[OK] をクリックしてリストアジョブをサブミットします。

[ジョブステータス]ウィンドウが開き、[ジョブキュー]と[ジョブの詳細]が表示されます。サーバ名を右クリックして [プロパティ] を選択すると、より詳細なジョブ モニタ情報も表示できます。[ジョブ モニタ]ウィンドウが開き、リストアプロセスの詳細と

ステータスが表 示 されます。



リストア ジョブが完 了 すると、ステータス ウィンドウが開き、バックアップ ジョブの最 終ステータス(成 功 または失 敗) が表 示 されます。

16. **[OK]**をクリックします。

[ステータス]ウィンドウが閉じられます。

増分バックアップを使用したデータのリストア

増分バックアップ セッションを含むフルバックアップからリストア ジョブを実行できます。

増分バックアップ セッションを含むフルバックアップからリストアする方法

1. フルバックアップ セッションからすべてのトランザクション ログをリストアします。
2. フルバックアップ以降、指定した日時までに作成したすべての増分バックアップ セッションからトランザクション ログをリストアします。
3. フルバックアップ セッションからすべてのデータベース ファイル(トランザクション ログは除く) をリストアします。
4. フルバックアップ以降、指定した日時までに作成したすべての増分バックアップ セッションからすべてのデータベース ファイル(トランザクション ログは除く) をリストアします。

注: アーカイブされたログ ファイルが存在しない場合、またはアーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが有効に設定されている Lotus Domino サーバに新しい DBIID が割り当てられていない場合は、増分バックアップ セッションが空になっていることがあります。

差分バックアップを使用したデータのリストア

差分バックアップセッションを含むフルバックアップからデータをリストアできます。

差分バックアップセッションを含むフルバックアップからリストアする方法

1. フルバックアップセッションからすべてのトランザクションログをリストアします。
2. 前回の差分バックアップセッションからトランザクションログをリストアします。
3. フルバックアップセッションからすべてのデータベースファイル(トランザクションログは除く)をリストアします。
4. 前回の差分バックアップセッションからすべてのデータベースファイル(トランザクションログは除く)をリストアします。

Lotus DAOS オブジェクト

このセクションでは、Lotus DAOS オブジェクトのリストアシナリオ、Lotus DAOS オブジェクトのリストア方法について説明します。

このセクションには以下のトピックが含まれます。

- [リストアシナリオ](#)
- [Lotus DAOS オブジェクトのリストア](#)

リストアシナリオ

Lotus DAOS オブジェクトでは、以下のシナリオを使用できます。

セッション全体のリストア

すべてのデータベースファイル(NSF、NTF) 、および参照された DAOS オブジェクト(Notes Logical Object [NLO] が DAOS オブジェクトのファイルの種類です) ファイルをリストアします。

選択したデータベースのリストア

選択したデータベース(NSF、NTF) および参照された DAOS オブジェクト(NLO) ファイルをリストアします。

データベースをリストアせずに、DAOS フォルダをリストア

このセッションではバックアップされた DAOS オブジェクトをすべてリストアします。データベースファイルは処理されません。

Lotus DAOS オブジェクトのリストア

メインの Lotus Notes データベースとは別のディスク上に DAOS フォルダがある場合、そのフォルダのみを選択してリストアできます。

DAOS オブジェクトをリストアする方法

1. [クイック スタート] をクリックし、[リストア] を選択します。

リストア マネージャが開きます。

2. [ソース] タブで、リストアする Lotus Domino データベースを探します。

データベースが DAOS オブジェクトを参照している場合、Notes Logical Object (NLO) ファイルはすべて表示されません。DAOS オブジェクトのトップレベルのフォルダおよびデータベースのトランザクション ログのみが表示されます。

3. リストアする DAOS オブジェクトを選択します。

注: 大量の NLO ファイルが存在する場合、フォルダを展開してすべてのファイルを表示すると Arcserve Backup のパフォーマンスに影響を及ぼすため、DAOS オブジェクト フォルダを展開することはできません。また、NLO ファイル名は ID として表示され、ファイル内容を識別できないため、特定の NLO ファイルをリストアすることはできません。

4. [デスティネーション] タブをクリックし、リストア先を選択します。
5. [スケジュール] タブをクリックし、リストアを実行する時間を選択します。
6. [サブミット] をクリックします。

リストア ジョブが開始されるか、またはスケジュールした時間に実行するために保存されます。

惨事復旧の実行

惨事の発生後にデータが失われるリスクを最小限にするためにもっとも重要なことは、すべてのサーバおよびワークステーションの最新のバックアップを取っておくことです。定期的にバックアップを実行しなければ、ハードディスク障害などの惨事が発生した場合に、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino の Lotus Domino データを復旧する機能が制限されます。必ず、バックアップを頻繁に更新するメディアローテーションスケジュールを作成し、最新のフルバックアップを保持するようにしてください。惨事が発生した場合に、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して、すばやく効率的に Lotus Domino サーバを復旧することができます。Windows システムの惨事復旧の詳細については、「[Disaster Recovery ユーザガイド](#)」を参照してください。

エージェントを使用して惨事復旧を行う方法は、Lotus Domino サーバの設定によって異なります。

このセクションには以下のトピックが含まれます。

- [アーカイブされたトランザクションログが有効な場合の惨事復旧の実行](#)
- [循環トランザクションログが有効な場合の惨事復旧の実行](#)
- [トランザクションログが無効な場合の惨事復旧の実行](#)

アーカイブされたトランザクション ログが有効な場合の 惨事復旧の実行

惨事が発生したときに Lotus Domino のアーカイブ形式のトランザクション ログ オプションが有効な場合は、以下の手順で Lotus Domino サーバのデータベースを復旧できます。

アーカイブされたトランザクション ログが有効な場合に Lotus Domino サーバのデータベースを復旧する方法

1. Lotus Domino サーバ プログラム ディレクトリをすべてリストアまたは再インストールします。

リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

重要：データ損失の範囲によっては、新しく Lotus Domino サーバをインストールし、設定する必要があります。新しくインストールするサーバは、必ず、障害が発生したサーバと同じ方法で、同じディレクトリ構造、場所、およびディレクトリパスになるように設定してください。ただし、この時点では新しいサーバを起動しません。

2. データが失われる前に保存した最新の notes.ini、cert.id および server.id の各ファイルをリストアします。

リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

3. ログ ディレクトリ (logdir) を準備します。notes.ini ファイルで定義されているログ ディレクトリ (デフォルト: logdir) が存在し、ログ ディレクトリに以前のファイルがないことを確認します。以前のインストール環境に入っていたトランザクション ログ コントロール ファイル (nlogctrl.lfh) およびログ ファイル (.txn) を削除します。

4. Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータベース ファイルを Lotus Domino のデータ ディレクトリにリストアします。ただし、トランザクション ログは無効にしておきます。[回復の実行] オプションを選択しないでください。

注：最初にフルセッション バックアップでデータベース ファイルをリストアしてから、フルバックアップ以降の増分セッション バックアップでデータベース ファイルをリストアするか、前回の差分セッション バックアップからデータベース ファイルをリストアします。

[回復の実行] オプションが選択されていないことを確認してください。

5. アーカイブされたログ イベントをリストアします。

バックアップ ファイルは、前回アーカイブされたトランザクション ログの範囲で、前回バックアップされたトランザクションに回復することができます。

注：フルバックアップ以降の増分セッション バックアップでトランザクション ログ ファイルをリストアするか、前回の差分セッション バックアップからリストアします。フルセッション バックアップでログ ファイルをリストアする必要はありません。

6. ログ ディレクトリ(logdir) を確認します。

- a. ログ ディレクトリが空の場合は、notes.ini ファイル内の以下のパラメータが設定されていることを確認して、手順 11 に進みます。

TRANSLOG_Recreate_Logctrl = 0

- b. ログ ディレクトリが空でない場合は、以下のパラメータを notes.ini ファイルで設定して、新しいコントロールファイルの作成を簡略化します。

TRANSLOG_Recreate_Logctrl = 1

7. Lotus Domino サーバを再起動し、その後シャット ダウンします。

8. 新しいコントロールファイルの作成を無効にするには、notes.ini のパラメータ値を以下のように変更します。

TRANSLOG_Recreate_Logctrl = 0

注：ほかに、notes.ini ファイルから以下のパラメータを削除した場合も、新しいコントロールファイルの作成を無効にすることができます。

TRANSLOG_Recreate_Logctrl = 1

9. 共有メールをリストアする場合、共有メールをリストアする前に以下の手順を実行します。

- a. Lotus Domino サーバを起動します。
b. 共有メールをオフラインにします。
c. Lotus Domino サーバをシャット ダウンします。

注：データベース ファイルをリストアする前に、Lotus Domino サーバをシャット ダウンする必要があります。

10. データベース ファイルを復旧するには、Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して再度 Lotus Domino データベース ディレクトリにデータベース ファイルをリストアします。ただし、このときは [回復の実行] オプションを選択します。

注：最初にフル セッション バックアップでデータベース ファイルを回復して、フル バックアップ以降の増分 セッション バックアップでデータベース ファイルを回復するのは、その増分 セッションの後にバックアップされたアーカイブ ログ ファイルが存在する場合のみです。差分 セッション バックアップでデータベース ファイルを回復する必要はありません。

11. 新しくインストールした Lotus Domino サーバを起動します。

惨事復旧処理が完了すると、Lotus Domino サーバを起動してサーバのタスクや機能を実行できるようになります。

詳細情報：

[データベース インスタンス識別子 \(DBIID\)](#)

循環トランザクション ログが有効な場合の惨事復旧の実行

惨事が発生したときに Lotus Domino の循環形式のトランザクション ログ オプションが有効な場合、以下の手順で Lotus Domino サーバのデータベースを復旧できます。

循環トランザクション ログが有効な場合に Lotus Domino サーバのデータベースを復旧する方法

1. Lotus Domino サーバ プログラム ディレクトリをすべてリストアまたは再インストールします。
リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。
<![CDATA[]]>重要データ損失の範囲によっては、新しく Lotus Domino サーバをインストールし、設定する必要があります。新しくインストールするサーバは、必ず、障害が発生したサーバと同じ方法で、同じディレクトリ構造、場所、およびディレクトリパスになるように設定してください。ただし、この時点では新しいサーバを起動しません。
2. データが失われる前に保存した最新の notes.ini、cert.id および server.id の各ファイルをリストアします。
リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。
3. ログ ディレクトリ (logdir) を準備します。以前のインストール環境に入っていたトランザクション ログ コントロール ファイル (nlogctrl.lfh) およびログ ファイル (.txn) を削除します。
4. 新しいコントロールファイルの作成を簡単にするには、notes.ini ファイルで以下のパラメータを設定します。
`TRANSLOG_PATH = LOGDIR`
5. Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータベース ファイルを Lotus Domino のデータ ディレクトリにリストアします。ただし、トランザクション ログは無効にしておきます。[回復の実行] オプションを選択しないでください。
6. 新しくインストールした Lotus Domino サーバを起動します。
惨事復旧処理が完了すると、Lotus Domino サーバを起動してサーバのタスクや機能を実行できるようになります。

トランザクション ログが無効な場合の惨事復旧の実行

惨事が発生したときに Lotus Domino のトランザクション ログ オプションが無効な場合は、以下の手順で Lotus Domino サーバのデータベースを復旧できます。

トランザクション ログ オプションが無効な場合に Lotus Domino データベースを復旧する方法

1. Lotus Domino サーバ プログラム ディレクトリをすべてリストアまたは再インストールします。
リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。
<![CDATA[]]>重要データ損失の範囲によっては、新しく Lotus Domino サーバをインストールし、設定する必要があります。新しくインストールするサーバは、必ず、障害が発生したサーバと同じ方法で、同じディレクトリ構造、場所、およびディレクトリパスになるように設定してください。ただし、この時点では新しいサーバを起動しません。
2. データが失われる前に保存した最新の notes.ini、cert.id および server.id の各ファイルをリストアします。
リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。
3. Arcserve Backup Agent RPC サーバを再起動します。
4. Lotus Domino サーバをシャット ダウンします。
5. Arcserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータベース ファイルを Lotus Domino のデータ ディレクトリにリストアします。ただし、トランザクション ログは無効にしておきます。
6. 新しくインストールした Lotus Domino サーバを起動します。
惨事復旧処理が完了すると、Lotus Domino サーバを起動してサーバのタスクや機能を実行できるようになります。

第4章: 用語集

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

DBIID	70
トランザクション ログ	71

DBIID

DBIID とは、トランザクション ログを有効にしたときに Lotus Domino によって各 Lotus Domino データベースに割り当てられるデータベース インスタンス識別子です。

トランザクション ログ

トランザクション ログとは、ある特定の時点以降にデータベースで発生したすべてのトランザクションをリストにしたものです。

第5章: Index

[

Point-In-Time 回復]オプション 53

回復の実行]オプション 53

D

DBIID 14

L

Lotus DAOS オブジェクト

バックアップ 47

リストア 63

い

インストールの前提条件 24

え

エージェン

アンインストール 31

エージェント

アーキテクチャ 13

インストール 25

インストールの前提条件 24

フロー図 13

レジストリパラメータの変更 29

設定 26

エージェントのアンインストール 31

お

オプション

- Point-In-Time 回復 53
- 回復の実行 53

す

スケジュール タブ

- バックアップ 39
- リストア 51

そ

ソース タブ

- バックアップ 39
- リストア 51

て

データベース

- リカバリ時間 21
- 好機 20
- 重要性 17
- 変動性 18

データベース インスタンス ID (DBIID) 14

デスティネーション タブ

- バックアップ 39
- リストア 51

は

バックアップ

- Lotus DAOS オブジェクト 47
- スケジュール タブ 39

ソースタブ 39
デスティネーションタブ 39
マネージャ 38
計画の考慮事項 16
自動繰り返し 22
方式 40

バックアップ計画

データベースのサイズ 19
データベースの重要性 17
データベースの変動性 18
リカバリ時間 21
一般的な考慮事項 16
計画 15
好機 20
自動的にバックアップを繰り返し 22

ふ

フロー図 13

ま

マネージャ

バックアップ 38
リストア 48, 50

り

リストア

Lotus DAOS オブジェクト 63
イメージ/サーバレス方式 52
オプション 53
スケジュールタブ 51
セッション単位方式 52
ソースタブ 51
ツリー単位方式 52
デスティネーションタブ 51
マネージャ 48
メディア単位方式 52

差分バックアップによるデータ 60

実行 59-60

準備 49

照会単位方式 52

増分バックアップによるデータ 59

方式

イメージ単位リストア 52

セッション単位リストア 52

ツリー単位リストア 52

メディア単位リストア 52

照会単位リストア 52

方法 52

リストアオプション

Point-In-Time 回復 53

回復の実行 53

リストアシナリオ、Lotus DAOS オブジェクト 62

れ

レジストリパラメータ

dll 29

dsaobject 29

NotesDataPath 29

NotesHomeDir 29

NotesIniDir 29

PreviousInstanceName 29

デバッグ 29

変更 29

漢字

差分バックアップ

データのリストア 60

惨事復旧

アーカイブされたトランザクションログ 65

概要 64

自動繰り返しバックアップ 22

実行

リストア 59-60

準備

リストア 49

図 13

設定

エージェント 26

増分バックアップ

エージェントのインストール 25

データのリストア 59

前提条件 24

方式

イメージ単位リストア 52

セッション単位リストア 52

ツリー単位リストア 52

バックアップ 40

メディア単位リストア 52

照会単位リストア 52

